

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

新年の御挨拶

全国酪農業協同組合連合会
代表理事会長 砂金甚太郎
農林水産省生産局長 枝元真徹

酪農とのかけはし/
瀬尾哲也さん

酪農業に対する理解醸成活動報告 **後編**



酪農トピックス／大山乳業農業協同組合が生・処・販一貫体制を貫き創立70周年(大阪) ほか

酪政連活動報告

日本酪農見て歩紀 (岩手県岩手町 有限会社 プロスパー・デーリー・ファーム)



1

2017 January No.616



全国酪農業協同組合連合会

新年の御挨拶

全国酪農業協同組合連合会 代表理事会長

砂金 甚太郎



新年明けましておめでとうございます。

全国の酪農生産者・会員の皆様及び関係者の皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より、弊会事業に特段のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成29年の年頭に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

昨年一年を振り返りますと、海外では英国のEU離脱、米国の大統領選挙など、大方の予想を覆す結果がもたらされる事態に、世界が動揺いたしました。

特に後者については我が国酪農業界に与える影響

も小さくなく、選挙結果が判明した直後から為替や株価が大きく変動いたしました。また次期大統領がTPP離脱を明言していることから、TPPの発効は非常に困難な状況にあります。この代替案として2国間FTAの可能性も取り沙汰されており、TPP同様、我が国酪農業に与える悪影響は計り知れないことから、今後の動きに注視が必要です。

国内に目を向けますと、各地で地震や台風、大雨による大きな被害が発生し、酪農関係者も多くの方々が被災されました。改めて被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げます。

また政府の規制改革推進会議においては、農協改



革に関する議論が活発化し、その中で加工原料乳生産者補給金制度や全農の改革が焦点となりました。加工原料乳生産者補給金制度については、補給金の交付対象が拡大することが示されましたが、場当たり的な制度利用を回避し不公平感を解消するルールが不可欠であり、かつ、確実に機能するか監視していかねばなりません。全農改革については、当初の提言が過度に経営に踏み込むものであったため、多くの関係者の反発を招き、全農の自主改革に委ねる内容に落ち着きましたが、経済事業を営む本会に対しても、今後改革を求める声が強まってくることも想定しておく必要があります。

しかしながら、酪農家戸数、乳牛頭数の減少などの苦境にある酪農業界にあって、本会としても従来どおりの事業の進め方に拘泥しては、将来的に行き詰まる可能性が高く、外からの指摘とは関係なく組織の改善を図っていくことが重要であると考えております。

このように変わらなければならないことがある一方で、全酪連として変わってはならないこともございます。

おかげさまで本年、全酪連が取り扱う子牛育成用代用乳「カーフトップ」が供給開始から50年を迎えます。

本会では昭和26年、哺乳子牛向けに脱脂粉乳の飼

料化に成功し、昭和41年、本会直営工場の第1号である旧横浜工場にて、全乳代用乳「カーフトップ」の製造・供給が始まりました。以降、幾多の技術改良や、シリーズの拡張を経て、50年の長きにわたり多くの会員・酪農家のご愛顧を賜りながら、今日に至っております。昭和25年の弊会設立から、我が国酪農における技術の普及と製品開発に取り組んできた成果が結実したものであり、この酪農に関する技術、酪農に取り組む真摯な姿勢は、今後とも全酪連の強みとして、変わることなく伝承していかねばなりません。

もとより全酪連は酪農家のための組織であるという変わることのない原点を改めて再認識し、今後の変革に臨んでいく必要があります。

そのためにも、私ども全酪連は酪農専門農協の全国連として、今後とも全国の会員・酪農家の皆様のご協力と行政・関係団体のご指導ご支援を賜りながら、今年が総括の年度となる第十次中期事業計画に基づき、酪農生産資材の安定供給や経営支援の強化、搾乳後継牛の確保などを通じて、我が国酪農生産基盤の維持・拡大に寄与していく所存であります。

最後になりますが、全国の酪農生産者・会員役員の皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭の御挨拶

農林水産省生産局長 枝元 真徹



明けましておめでとうございます。

平成29年の新春を迎えるに当たり、一言、御挨拶を申し上げます。

昨年は、熊本地震や度重なる台風など、多くの災害が発生し、畜産業も大きな被害を受けました。農林水産省といたしましても、被災された皆様が、今後も畜産業に対する希望をもって、前向きに復旧・復興に取り組んでいただけるよう、引き続き全力で支援してまいります。

昨年11月、「農業競争力強化プログラム」(以下「強化プログラム」という)をとりまとめました。このプログラムは、農業者の所得の向上を図るため、農業者が自由に経営展開できる環境を整備するとともに、農業者の努力では解決できない構造的な問題を解決しようとするものです。具体的には、生産

資材の引下げや流通・加工構造の改革、生乳流通改革のほか、肉用牛・酪農の生産基盤強化、配合飼料価格安定制度の安定運営といった改革を盛り込んでおり、これらの改革を確実に実現してまいります。農林水産省一丸となって、農林水産業の成長産業化、「強い農林水産業」と「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、全力をあげてまいります。

つきましては、年頭に当たり、今後の畜産行政について主な課題と基本的な取組方針を申し述べます。

生乳生産等の酪農経営の安定等

生乳生産量は、27年度に3年振りにプラスに転じましたが、28年度は台風による影響や乳用牛飼養頭数の減少等により、生乳生産量は再び減少すると見込まれております。このような中、我が国の酪

農経営の競争力強化と牛乳・乳製品の安定供給を確保するため、29年度から、加工原料乳生産者補給金制度の対象に、生クリーム等の液状乳製品を追加するとともに、補給金単価を一本化することを決定いたしました。当省といたしましては、「強化プログラム」に基づき、引き続き、体質強化対策として畜産クラスター事業等を活用した施設整備や機械導入、性別別精液の活用等による優良な乳用後継牛の確保への支援等を実施し、酪農生産基盤の強化を進めるとともに、学校給食用牛乳の安定供給への支援、国産牛乳・乳製品に係る新技術開発や輸出に向けた環境整備への支援等による国内外の需要の拡大等にも取り組んでまいります。

また、酪農生産基盤の強化と併せて、生産者の努力が報われる農業を実現し、最終需要者のニーズ

に十分対応した供給がなされるようにしていく観点から、「強化プログラム」に基づき、牛乳・乳製品の生産・流通等に関する改革に取り組むこととしています。具体的には、酪農家が出荷先等を自由に選べるようにするという観点から、指定団体に出荷する酪農家のみに補給金を交付するという制度を改め、指定団体以外に出荷した酪農家にも補給金を交付するという制度に改革することとしています。見直しに当たっては、飲用向けと乳製品向けの調整の実効性の担保、部分委託に関して場当たりの利用を認めないこと、条件不利地域の生産者が確実に集乳されることを考慮することとしています。今後、早急に必要な検討を行い、次期通常国会への法案提出を念頭に、関係者と十分な調整を行ってまいります。

肉用牛生産等の畜産経営の安定等

国内における根強い国産牛肉需要等を背景に、昨年引き続き、牛肉、豚肉、鶏肉、鶏卵等の畜産物や子牛価格は高い水準で推移しております。また、肉用子牛生産については、生産者の高齢化等により農家戸数や飼養頭数が減少傾向にありましたが、最近の子牛価格の上昇も追い風となり、28年度の畜産統計においては肉用牛の繁殖雌牛頭数が6年ぶりに回復に転じました。農林水産省といたしましては、肉用牛生産をはじめとする畜産経営の安定を図っていくため、引き続き、肉用子牛生産者補給金制度、牛マルキン等の経営安定対策を着実に実施するとともに、「強化プログラム」に基づき、畜産クラスター事業等を活用した省力化機械の導入やキャトルステーションの整備等生産コストを低減する取組への支援、受精卵移植の活用による効率的な和子牛生産、ICTを活用した発情発見機等の技術の活用により、肉用牛生産基盤の強化を支援してまいります。

配合飼料価格への対応等

配合飼料価格については、短期的かつ急激な上昇に対しては配合飼料価格安定制度、中長期的な高止まりに対しては経営安定対策を組み合わせることで、畜産経営の安定を図ってまいります。また、配合飼料価格安定制度については、「強化プログラム」に基づき、補填財源の確保及び借入金計画的な返済を促すことにより、引き続き、制度の安定的な運営に努めてまいります。また、配合飼料の価格形成の仕組みについても、「強化プログラム」に基づき、生産資材価格の引下げと農業及び配合飼料業界の国際競争力の強化を図るため、①国内外の価格等の状況の定期的把握と公表、②産地の声をよく聞きながらの銘柄数の絞り込み、③業界再編・設備投資等の推進、④こうした改革の推進のための法整備等に取り組んでまいります。

畜産物の輸出への対応等

国内で少子高齢化が進む中、将来にわたって国産畜産物の需要を

安定的に確保する上でも中長期的に成長が見込まれる海外市場を積極的に開拓することが必要です。特に、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会などの機会に、国産畜産物の質の高さが見える形でアピールできるよう、JGAP畜産物の普及などに取り組んでまいります。

併せて、畜産物の輸出拡大を積極的に推進するため、昨年5月に取りまとめられた「農林水産業の輸出力強化戦略」に基づき、輸出先国の衛生基準を満たす食肉処理施設の整備や、しゃぶしゃぶ・すき焼き等の食べ方の普及策と合わせて日本産畜産物の品質の良さを売り込んでいく取組等に支援するほか、民間では対応できない外国の規制等への対応について、当省としても全力で取り組んでまいります。

東日本大震災・原発事故からの復旧・復興

原発事故に対しては、安全な畜産物を供給するため、適正な飼養管理の徹底と、草地除染と汚染廃棄物の処理等に関係省庁等と連携して実施するとともに、「食べて応

援しよう！」のキャッチフレーズの下、被災地及び周辺地域で生産・製造されている農林水産物の積極的な消費拡大も促進してまいりました。本年も、生産者が一日も早く営農再開を果たせるよう、引き続き取り組んでまいります。

皆様御承知のとおり、我が国の畜産業は、農業総産出額の約35%を占める重要な産業であり、安全・安心な畜産物を消費者に安定的に供給するだけではなく、地域経済の維持・活性化、良好な景観の形成等の多面的な機能の発揮を通じ、国民生活において重要な役割を果たしております。

農林水産省としましては、以上のような取組を着実に実施することにより、我が国の畜産業の一層の発展、充実を図るとともに、食の安全と消費者の信頼確保に努めてまいります。

皆様におかれましては、昨年にも増して、畜産行政への御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の一層の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

現職に携わるまで

山口県の子農家出身ですが、動物が好きで農学部に進み、大学、大学院と家畜行動学について勉強しました。行動学とは動物が何を考えているのか、なぜその行動をするのかと云うことを学ぶ学問です。そのために動物を観察するのですが、その中で家畜が必要以上のストレスを感じているのではないかと思いはじめました。生産性のために家畜に負荷がかかりすぎている、人間のためにどのような利用しても良い動物ではないと考へ、そこからアニマルウェルフェア（家畜福祉）の研究を始めるこ



▲ 瀬尾哲也先生(中央)と帯広畜産大学大学院生で協会の審査資格も持つ喜多村美花さん(右)、クリーマリー農夢の佐竹さん(左)

瀬尾 哲也 さん

帯広畜産大学 畜産学部 講師
研究テーマ:アニマルウェルフェア(家畜福祉)、カウコンフォート、牛の行動、酪農教育ファーム

仕事内容

帯広畜産大学講師として講義、ゼミを行うほか、2016年5月に設立された(一社)アニマルウェルフェア畜産協会の代表理事を務め、セミナーでの講演や実践牧場の審査等、理解・普及を進めている。
ホームページアドレス:<http://animalwelfare.jp>

第5回
帯広畜産大学
畜産学部 講師

酪農との

かわり



「アニマルウェルフェアで家畜も人も幸せに」

とにしました。さらに海外ではかなり普及している家畜福祉が、日本ではほとんど認知されていないことも研究を始めるきっかけとなりました。

酪農とのかかわり

大学院を終えて半年間札幌の農

14:00	13:00	9:00	8:30	前日
帯広へ戻り、事務処理	認証審査	ホテル出発	前日:移動(帯広→旭川)会議 前泊	

※取材日は日曜だったため講義等はありませんでしたが、普段は午前、午後とも講義を行う日、またゼミで深夜まで大学にいる日もあるそうです。

瀬尾 哲也 さんの
1日のタイムスケジュール

▼ 認証審査の様子。聞き取りのほか、チェックシートに沿って「管理」「動物」「施設」について審査を行う。



業試験場で研究を行い、それから現職の帯広畜産大学講師となり、今は牛の行動と福祉、酪農教育ファームについての研究と講義を行っています。畜産にかかわらず農業に対しての消費者の理解が浅いのではないかと感じており、生産者をもっと消費者に伝えていかなければならないと考え、酪農教育ファームについては初期の段階から事務局として活動に参加させていただいています。

同じく研究テーマであるアニマルウェルフェアについては、言葉だけで理解してもらおうのは難しく、より具体的な提案をすることで生産者に理解してもらえら

う、実際に牧場がどういう状態であればよいのかという基準をつくり評価する研究を10年ほど続けてきました。昨年の5月に設立した一般社団法人アニマルウェルフェア畜産協会では、それらの基準をもとに牧場の認証を行っています。そして農家自身そして消費者の方にもアニマルウェルフェアについて正しく理解し、また取り組んでいただけたらと考えています。

**酪農業の魅力とは、
そして今後の酪農に望むこと**

私自身、牛が好きで牛乳も大好きです。酪農の魅力は、牛と一緒に暮らせること、そして家族で仕

事ができ一緒に過ごせることだと思います。でも今は、農家の方が頑張りすぎているように感じます。たくさん牛の世話に追われ、生産性や効率を重視するようになり、自然の中で牛と共に生きるという本来の酪農業の魅力は薄れてきています。家族との時間もとれない、ご飯も一緒に食べられない、そしてたくさん牛からたくさん牛乳を搾るだけになつてしまふのもつたない。それでは新たに酪農をやつてみたいと思える産業ではなくなつてしまふと思います。

農家の方にはもつと自分のことを大切に、自分の幸せを大事に考えてほしいと思います。忙しいことは良いことですが、時間に追われすぎると自分の幸せを考える余裕がなくなつてしまいます。アニマルウェルフェアとは家畜の幸せを言いますが、そのためには農家自身が幸せでないといけないと僕は考えています。

もちろん、こんなことを言うと「そんなに甘い世界じゃない」と言われるのは覚悟しています(笑)

取材に伺った日は、アニマルウェルフェア認証審査でした。審査はアンケートによる聞き取り調査の後、実際に牧場での確認が行われ、協会ではこれらの認証システムをもとに、認証農場の生産物を食卓に届けていくことにも取り組んでいます。認証開始1年目の今年は、認証希望のあった農家のうち3農家の審査をしています。そのうちの1軒で今回審査を受けたクリーマリー農家の佐竹秀樹さんは早くからアニマルウェルフェアを実践し、現在乳牛7頭を飼養し、自身で加工、販売まで手掛けています。放牧主体となる夏場でも無脂乳固形分9.7%、乳脂肪分5.8%という乳質検査結果が出たこともあり、「牛にストレスをかけないことが、質の高い生乳生産へつながります。牛を大切にしましょう。」と話されました。

全国の酪農家に
一言!



できることから良いので、
アニマルウェルフェアに取り組んでみましょう。

東京
支所

JA前橋市本所 ちびっこ広場
「前橋市農業まつり」(群馬県前橋市)
日 時:11月5日(土)
参加者:群馬中央酪農業協同組合生産者・職員 4名



亀田市民会館2階大ホール
「亀田・横越農業まつり」(新潟県亀田市)
日 時:11月27日(日)
参加者:新潟みらい農業協同組合亀田支店・横越支店 4名

名古屋
支所



岡崎市殿橋下流乙川河川敷
「岡崎城下 家康公秋まつり」(愛知県岡崎市)
日 時:11月5日(土)~11月6日(日)
参加者:愛知県酪農協岡崎支所婦人部



JAひまわり一宮事業所
「JAひまわり東部農業まつり」(愛知県豊川市)
日 時:11月26日(土)
参加者:ひまわり農協青年部



福岡
支所

黒木駅跡公園
「黒木まつり」(福岡県八女市)
日 時:11月6日(日)
参加者:ふくおか県酪久留米支所 6名

JAあさくら本所周辺会場
「第33回朝倉市農業まつり」(福岡県朝倉市)
日 時:11月19日(土)~11月20日(日)
参加者:ふくおか県酪久留米支所 10名

むつごろうランド
「第12回柳川よかもん祭り」(福岡県柳川市)
日 時:11月19日(土)~11月20日(日)
参加者:ふくおか県酪久留米支所 5名

久留米百年公園
「ふるさと農業まつり」(福岡県久留米市)
日 時:12月12日(月)~12月13日(火)
参加者:ふくおか県酪久留米支所 20名

竹野校区コミュニティセンター
「竹野校区土曜塾」(福岡県久留米市)
日 時:12月17日(土)
参加者:ふくおか県酪久留米支所 10名



山口県児童センター (山口市維新公園)
「MILK・JAPAN in 山口」(山口県山口市)
日 時:11月23日(水)
参加者:山口県酪農青年女性会議 13名



北九州市総合農事センター
「第30回北九州市農林水産まつり」(福岡県北九州市)
日 時:11月19日(土)~11月20日(日)
参加者:ふくおか県酪飯塚支所 10名

大阪
支所

日本の酪農を応援! あかわり、モ〜一杯!



酪農業 に対する 理解醸成 活動報告

後編



▲ (左から) 従業員の東館優樹さん、剛さんご夫妻、場長の木下賢次さん

No.284
 有限会社 プロスパー・
 デーリー・ファーム
 岩手県岩手町

「我が家に合う牛づくりで、 目指せ長命連産」

地域の概要



▲ 傾斜地を利用した牛舎

今回訪問した有限会社プロスパー・デーリー・ファームがある岩手県岩手町は、北緯40度線が町内を横切り、東北最大の河川である北上川の源流がある自然豊かな街です。国体会場となったホッケーが町技として普及し、小学校から社会人チームまで全国レベルで、全日本選手を多数輩出しています。また、文化振興では彫刻に力を入れており、彫刻公園など町内各所でその作品群を見ることが

(有)プロスパー・デーリー・ファームは、代表取締役社長である松本剛さん(35才)、奥さんの燈さん(39才)、父親の栄さん(65才)、母親の良子さん(62才)、3名の従業員及び6名の外国人実習生の計13名で、経産牛280頭、育成牛210頭を飼育しています。自給飼料畑は、借地も含めて牧草地が40町歩、デント

牧場の概要

当牧場が所属する新岩手農業協同組合(久保憲雄代表理事組合長)は、酪農家戸数464戸、生乳出荷数量124,803t(平成27年度)となっています。

できます。



コーン畑が33町歩です。外国人実習生には搾乳を中心に作業をしてもらっていますが、松本さん家族を含めて従業員の間ではあえて作業分担をせず皆が複数の作業をこなせるようにしており、週1回の休日はもちろん、連休取得も可能としています。剛さん夫妻は土日を中心に休日を取り、幼稚園に通う寧ちゃん(6才)と煌ちゃん(4才)の二人娘と多くの時間を過ごしています。

15年前に付けられた牧場名は、当時の社長であった父栄さん(Proper = 繁栄する)の名前が由来になっています。

牧場の経緯

我が家は祖父母の代で牛飼いを始め、父は36頭まで規模拡大し、今から15年前に150頭規模のフリーストール(以下FS)牛舎を現在の場所に新築し、同時に法人化しました。FSへの転換は、父の『休みが欲しい。そのためには従業員が必要だ。従業員を雇うにはそれなりの頭数が必要だ。』との考えです。その後、増頭に伴い



▲ 搾乳牛FS牛舎

搾乳牛舎を延伸増築し、徐々に乾乳分娩舎、育成舎を建て、現在の形態になりました。

一人息子が就農することも後押しになっていたのでしょうか。私が酪農学園大学付属とわの森三愛高校を卒業し、実家に戻ったのもその頃です。経営移譲は平成25年、4月からは4年目になります。移譲のきっかけは、どこの家もそうでしょうけれど、カッコよく言えば経営方針の相違。やりたい事が見えて自我が出てきて、単なる日々の作業の段取りなどでも度々父親と意見の食い違いがありました

て、それが積もり積もってある日激しく衝突しましたね。その時、父の口から『ならばお前がやってみろ!』と言われました。私自身、色々決心して父親とぶつかった結果なので『ならば、やってやろう!』と(笑)。

増頭増産から長命連産へ

父は常々『365日働けばなしではなくきちんと休みを取る。従業員を雇うならその家族も含め潤ってほしい。牧場の売り上げが伸びれば常に還元する。働いた分だけお金がもらえるようにしなければ』と、この考えは私も同感です。

父の頃は、経産牛の半分程度に和牛精液を付け、初妊牛を北海道から毎年のように導入していました。今に比べれば初妊牛はそう高くなかった事もあり、借入れをして導入していました。でも、借金を返す前にはその牛はいなくなる事もあって、それが嫌でね。育成牛は自分で作りたいなと思いがち、頭数を一杯にせずとも個々の能力を十分に引き出し、牛を長持ちさせる長命連産型を目指しま

した。売り上げは多少下がっても利益は同じくらいになるように、無駄な出費は排除し、飼料自給率を上げてコストダウンして、徐々に今の規模になってきました。

父の提案で、増産を目指して10年ほど前から取り入れている三回搾乳は、今も継続しています。10頭ダブルのパラーでの搾乳は6名の外国人実習生に任せています。実習期間は3年で、毎年2名が入替わりします。年長者は習得した技術を若い実習生に引き継いでくれています。オキシトシン効果



▲ 10頭ダブルミルクカー

札幌
支所発

北海道酪青女、秋季研修会でリフレッシュ！

11月1日(火)北海道酪農青年女性会議は札幌市内にて秋季研修会を開催しました。今年は「日頃の疲れを癒す簡単ストレッチ」と題してインストラクターを招き、普段の仕事や家事等で疲れのたまっている体を労わりました。

ストレッチは足の裏から始まり、お腹、腕、肩と、少しずつ全身を使ってこりをほぐしていききました。忙しい毎日の中、体のケアには時間を割けていない方がほとんどで、皆さんつい真剣な表情に。眉間にしわの寄るストレッチは筋肉の反発を招きます!と注意され我に返る姿も見られました。ストレッチは一人よりも皆で集まって笑顔で行うのが良いということで、少人数ではありましたがお互いの姿を見ては「(肩まで)手届かないの?!」「体硬いなあ!」などの声

がかかり、終始和やかな研修会となりました。

(T.H)



仙台
支所発

東北酪農青年女性会議 秋季研修会開催

去る11月16日(水)から17日(木)にかけて、東北酪農青年女性会議(半澤善幸委員長)による秋季研修会が開催されました。会場となった「八幡屋」(福島県石川町)には約80名の会員が参集し、生産基盤維持のために「哺育・育成を再確認」と題した講演が、弊会購買部酪農技術研究所の猪内勝利研究員を講師に行われました。

研修会の中で猪内研究員は、十分な抗体がある初乳給与の重要性や弊会の「強化」哺育による哺乳プログラムの優位性、その後のスターター給与が消化器官の発達に与える影響などを、試験データや写真をもって説明しました。『意外に行われていないのが水の給与。水があればスターターの採食量もおのずと増えます』は、明日からできる改善点に皆納得です。

▼ 講師を務める山口所長(左)と猪内研究員



▼ ロボットによる哺乳



2日目は、弊社酪農技術研究所(福島県矢吹町)の若齢預託施設の視察研修を行いました。今年4月から稼働しているこの若齢預託施設は、生産基盤維持に向けて後継牛確保のため、哺育・育成牛の管理を負担と考える酪農家に代わって行う施設であり、その後の北海道預託への足掛かりとして概ね6か月齢まで飼育する施設です。導入直後のバイオセキュリティ、最大8回/日の自動哺乳ロボットによる哺乳期管理、育成専用飼料による離乳後の育成牛の管理と、参加者は一連の施設を興味深く説明を受けていました。(I.M)

仙台
支所発

「渋谷区くみの広場2016」で東北の酪農をPR —東北酪農青年女性会議—

去る11月5日(土)・6日(日)の2日間にわたり、東京都渋谷区の代々木公園において、「渋谷区くみの広場2016」が開催されました。今年で39回目を迎えた同イベントは、代々木公園をメイン会場に例年150前後の団体がブースを出展し、野外ステージ等では50を超える企画が催される渋谷区民の一大イベントです。

東北酪農女性会議(半澤善幸委員長)は、震災後4年ぶりの昨年の参加に引き続き、今年も東北の牛乳・乳製品の販売で東京の消費者に対して酪農を大いにアピールしたことに加え、東北の酪農家が生産した新鮮な野菜や果物などの販売も行いました。

牛乳・乳製品を買い求める来場者は『去年も

覗いてみたけれどほとんど売り切れていて。今年は意識して早めに来ました。』とか『スモークチーズまだ有ります?』と、期待して来られる方々が目立っていました。

また、とれたて新鮮野菜のコーナーでは、野菜を手に取り『今年は特に高いので、この値段で頂けるのはありがたい』と、まるごとの白菜やダイコン、カボチャなどを品定めして買っていく多くの人たちの姿が見られました。

参加した東北酪青女の役員は、『自分が搾った牛乳が目の前で売れて行くようで、とてもうれしい。今年も参加できてよかった。』と感想を述べていました。

(I.M)

▼ 数多くのテントがズラリ



▲ 新鮮野菜も完売

▼ 途絶えることの無いお客さん



東京
支所発

関東甲信越酪農青年女性会議 平成28年度研修会を開催

関東甲信越酪農青年女性会議（小森崇宏委員長：栃木県）は、平成28年11月28日（月）東京ベイ・クルージングレストラン シンフォニーにおいて、



▲ 挨拶をする小森委員長

平成28年度研修会を開催しました。会員酪農家さんの「非日常」を創造することを一つのテーマとして、今回は東京湾クルーズ、モデルナ号に乗船しての開催でしたが、会員・事務局計73名の参加がありました。

研修は、講師に全酪連酪農生産指導室の丹戸靖課長を招き、「チームワークをきたえる」と題して、5名ごとのチームに分かれ、ゲーム感覚で行われました。新聞紙6枚・テープ30cmを材料として、制限時間内に高さを競う工作をすることでしたが、各チームが真剣に取り組みました。船内の会場ということ

で、残念ながら天井が低かったのですが、天井ぎりぎりまで立派なタワーを工作した優秀3チームが、懇親会の場で表彰されました。丹戸講師から「酪農経営でもコミュニケーションを密にして、チームワークを良くすることが大事です。」との解説がありました。

モデルナ号は、アフタヌーンクルーズ（研修）を終え接岸、準備の後サンセットクルーズへと出港しました。江部広大副委員長（新潟県）のご挨拶と乾杯のご発声で懇親会が開会しました。まずは、料理に舌鼓を打ちながら東京湾の夜景を堪能、レインボーブリッジや東京ゲートブリッジをくぐる時などは、歓声があがっていました。恒例となっているビンゴ大会も開催され、豪華景品を巡って一喜一憂でもとても盛り上がりました。クルージングの2時間はあっという間に過ぎて、秋山順子副委員長（埼玉県）の締めのご挨拶で閉会、参加者全員の記念撮影で解散となりました。

(I.H)



▲ 真剣に工作中



▲ 橋をくぐる



▲ 懇親会の様子

名古屋
支所発

愛知県酪農協青年女性部「ソフトバレー」開催

11月24日(休)に愛知県酪農協青年女性部(岩田周部長)のソフトバレーが行われました。

会場の愛知県畜産総合センター「ふれあいドーム」には部会員30名程が集まりました。

ソフトバレーは6人制で、選手は3チームに分かれて、2セット先取の総当たり戦で競い合いました。



▲ 競技風景

選手のみなさんは久しぶりにボールを追いかけて日頃の運動不足を痛感しましたが、幸運にも、筋肉痛は出たものの大きなケガはありませんでした。

競技終了後は、女性のみなさんが持ち寄った料理で昼食会を行い、あわせて正月飾り作りに挑戦し、交流を深めました。(Y.K)



▲ 正月飾り作り

名古屋
支所発

岐阜県酪農青年女性会議研修会開催

12月8日(休)、岐阜県美濃市「みの観光ホテル」において、岐阜県酪農青年女性会議(古田幸人委員長)の研修会が総勢19名で行われました。

研修は全酪連購買部副部長兼酪農生産指導室長の山崎正典氏を講師に招き「酪農生産基盤維持拡大のために」と題して、後継牛の確保、死廃率低減の重要性、DMSのシミュレーションを使った経営判断等について学びました。



▲ 古田委員長挨拶

参加者のみなさんもお自分の経営に直接関わる内容のため、熱心に聴講し講師に質問していました。

また、研修終了後は全酪連乳製品の試食会も催されました。

今回の研修が、牧場経営の一助となれば幸いです。(Y.K)



▲ 熱心な質疑応答

名古屋
支所発

中部酪農青年女性会議 今年度第2回研修会を開催

中部酪農青年女性会議（小笠原和美委員長）による今年度第2回研修会が、愛知県名古屋市「ウインクあいち」において開催されました。

今回の研修会は、先般名古屋東急ホテルで開催された全国発表大会の会場で行ったアンケートにおいて、「経営内容を高める研修」を希望する回答が多かったため、日頃の哺育管理を見直そうとの主旨で企画され、「健康な子牛を育てるマニュアル～子牛利益の最大化を目指そう～」と題し、全酪連購買部酪農生産指導室技監 齋藤昭氏を講師に行われました。

会場は総勢56名と満員状態で、参加者のみなさんは熱心に講師の話に耳を傾け、積極的に質問していました。

参加者からは、「研修の内容でどれも興味の

あるものだった。今までなんとなく“こんな傾向があるなー”と思っていたのが理解できた。」「先生のご講演をきいて改めて学んだことなどがあり、参加できてよかったです。」「普段疑問に思っていた事が、今日の研修で解決しました。」などの声が寄せられました。

これからも、中部酪農青年女性会議では様々な企画を行っていきます。次回は3月16日(休)～17日(金)に石川県加賀市「ゆのくに天祥」において中部発表大会を開催します。皆様のご参加をお待ちしております。

(Y.K)



▲ 研修風景

大阪
支所発

兵庫県酪農協がふれあい酪農体験授業 「もう～もう～スクール」を開催

去る11月30日(休)、兵庫県酪農農業協同組合（丸尾建城代表理事組合長）は、兵庫県畜産課の協力を受け、小学生を対象としたふれあい酪農体験授業「もう～もう～スクール」を開催しました。

この「もう～もう～スクール」は、毎年継続して開催されており、今年は兵庫県川西市立東谷小学校の4年生134名が授業を受けました。授業は、体育館で酪農教育ファームファシリテータの西山さんから「酪農のお話」、日本乳業協会の入口さんから「牛乳のお話」を聞いた後、皆で入口さんの指導を受けてバターを作りました。その後は、校庭において近隣の(有)梅脇牧場からお借りした成牛1頭・子牛5頭に実際にふれながら「餌やり体験」、「心音体験」、「模擬搾

乳体験」、「哺乳体験」を行ないました。

模擬搾乳・心音・哺育については全員が体験しました。哺乳体験では、哺乳瓶でミルクを飲ませながら頭をなで、「カワイイ!」「あったかい!」という声が口々に上がっていました。

酪農や牛乳のお話、実際にふれあいながらの体験を通じて、子供たちが食といのちの大切さを感じ学んだ授業となりました。 (A.T)



▲ 搾乳体験
「なかなか出ないぞ!」

▼ 心音体験
「ドキドキしてる!」



大阪
支所発

大山乳業農業協同組合が生・処・販一貫体制を 貫き創立70周年

大山乳業農業協同組合の創立70周年記念式典とその祝賀会が平成28年11月19日鳥取県東伯郡琴浦町のグリーン東伯において、組合員、行政・関係団体等から約200名が出席し盛大に開催されました。

式典の挨拶で幅田信一郎組合長は、「白バラブラ



▲ 式典で挨拶される幅田組合長

ンドを今後もしっかりと育て、先輩が苦勞して築き上げた財産を次の80年、100年につなげていく。そのために、鳥取県に相応しい酪農乳業を模索していく。」と新たな飛躍に向けた抱負を述べられました。また、坂井康宏中国四国農政局長、砂金甚太郎全酪連会長、畑忠男京都生協理事長よりお祝いの挨拶がありました。その後の祝賀会では、平野浩専務が「70年を機に新しいことにチャレンジし、すばらしい組織にしていく。」と述べられ、平井伸治鳥取県知事よ



◀ 祝賀会で挨拶される平野専務

▶ 激励される平井知事



り激励の挨拶がありました。

大山乳業農業協同組合は、1946年に任意組合の伯耆酪農組合が設立され市乳・バター・乳飲料の



▲ 祝辞を述べる砂金会長

製造販売を開始したことからスタートし、66年に伯耆・美保・東部の3酪農協が合併し現在の大山乳業農業協同組合となるとともに鳥取県指定生乳生産者団体としての指定を受けています。そして、発足から現在に至るまで生産した生乳を自社工場で処理加工し販売するという一貫体制を続けてこられました。牛乳乳製品のブランド名である「白バラ」は、その長年に亘り大切にされ・培われてきた品質管理による生産・処理・販売の一貫体制から高級イメージがあり、鳥取県だけでなく広く知られた存在となっています。

式典では、新たな発展に向け10年後を見据えた「白バラ酪農ビジョン」と白バラブランドの再構築とさらなる発展を目的と

した「ブランドビジョン」が発表されました。「酪農ビジョン」では、10年後の生乳生産量等の目標の設定とその達成のための取り組みが示されました。また、「ブランドビジョン」では、職場・商品・酪農家の3つを育てるをテーマに掲げ白バラブランドの再構築を目指すとしています。また、創立70周年の感謝を伝える記念ロゴマークが作成されるとともに、記念商品が続々登場するなどさまざまな取り組みが始まりました。



▲ 記念ロゴマーク

福岡
支所発

「第44回鹿児島県酪農青壮年女性親善スポーツ大会」開催される



▲ 親子で呼吸を合わせて

12月17日(土)鹿児島県酪農青壮年女性会議(小園千弘委員長)による第44回鹿児島県酪農青壮年女性親善スポーツ大会が国分スターレーンにて開催されました。

冬の寒さが感じられる気候でしたが、会場内は酪農家及び関係者約130名の熱気に包まれました。同会議の事務局長でもある鹿児島県酪農協中馬指導購買部長の開会宣言の後、小園委員長より主催者挨拶があり、ボウリングが開始されました。参加者には家族連れも多く、競技だけではなく近況の情報交換なども活発に行われ大いに盛り上がりを見せました。

大会後のプレゼント抽選会ではカタログギフトなど様々な賞品があり、参加者は終始楽しい時間を送っていました。抽選会後に表彰式が行

われ、大隅地区Cチームが団体優勝を収めました。個人戦も行われ優勝者には32型液晶テレビが贈呈されました。鹿児島県酪農協福田参事より「今日の元気でこれからの酪農を盛り立てていきましょう」との挨拶があり、新原副委員長の閉会挨拶で大会は幕を閉じました。(U.T)



▲ 優勝チームと小園委員長(左)

酪政連活動報告

平成28年10月～12月

日本酪農政治連盟

10/8 ～ 11/6	◆東京大手町、愛知県、富山県、大阪府、宮城県、福岡県で開催された自由民主党農林水産業骨太方針策定プロジェクトチーム現地意見交換会に出席、意見等を述べる。 (延べ26名が出席)		
10/26	◆自由民主党 畜産・酪農対策小委員会にて、指定団体関係のヒアリングの中で、要請意見を述べる。 (於:自由民主党本部)	12/1	<p>常任・中央合同委員会を開催。</p> <p>◆「指定団体制度に関する報告」、並びに「平成29年度畜産物価格・酪農対策に関する要請」を協議。</p> <p>◆自由民主党酪政会総会にて「指定団体制度に関する要請」を実施。</p> <p>◀ 酪政会総会で挨拶する森会長</p> <p>▶ 酪政会総会で挨拶する坂本委員長</p> <p>◀ 酪政連合同委員会で挨拶する佐々木委員長</p>
10/31	自由民主党 畜産振興議員連盟総会において「平成29年度酪農政策・予算確保に関する要請」を実施。 (於:自由民主党本部)		
11/25	自由民主党 農林・食料戦略調査会、農林部会、農林水産業骨太方針策定PT、農業基本政策検討PT、畜産・酪農対策小委員会 合同会議にて、指定団体制度に関する要請を実施。 (於:自由民主党本部)	12/12	自由民主党畜産・酪農対策小委員会にて、「平成29年度畜産物価格・酪農対策に関する要請」を実施。

平成28年度 全酪連会員担当者研修会

11月25日及び29日、平成28年度会員担当者研修会を開催しました。当研修会は全国の会員組合の担当者を対象に毎年開催しており、今年は、東日本（11月25日：東京）・西日本（11月29日：広島）の2会場で、会員酪農協・関係団体及び本会から合計40名の参加となりました。

前半は、個人情報保護委員会事務局 政策調査員 山田文威氏による「個人情報保護法の基本について」の講演が行われました。

個人情報とは生存する個人に関する情報で「ある特定の人物」のものだとわかる。企業が指名と紐づけてその人物の情報を管理していれば、基本的にそれらは全てその人物の個人情報にあたります。

今回の研修会では

- 1、個人情報を取得するときには、何に使うか目的を決めて本人に伝える事。
- 2、取得した個人情報は決めた目的以外のことには使わない
- 3、取得した個人情報は安全に管理する
- 4、個人情報を他人に渡す際は、本人の同意を得る
- 5、本人からの「個人情報の開示請求」には応じる

以上、個人情報保護法の5つの基本チェックリストをもとに解説されました。



▲ 山田文威講師

後半は、日本農業新聞・元論説委員室長の伊本克宜氏による「最近の酪農情勢と今後の展望について」の講演が行われました。

概要 規制改革会議農業WGによる指定団体制度改革の議論について、現行制度は酪農家・乳業メーカー・消費者の「三方良し」の精緻な仕組みである。生乳の特質を踏まえ現行制度は一元集荷多元販売を実現しており、共販を通じ酪農経営の安定に多大な役割を果たしており、小指定団体の乱立は生乳需給を混乱させ、かえって酪農所得減少につながる事が懸念される。

今後、指定団体制度は根幹を維持しつつ、さらに酪農振興と生乳増産に向けた機能強化について議論することが必要であると考えます。

自由化進展の中で今は国内結束を強め、海外との競争力を高める時であり、生産振興・基盤強化・都府県にもメリットのある酪農施策の拡充に注力すべきではないのか。



▲ 伊本克宜講師

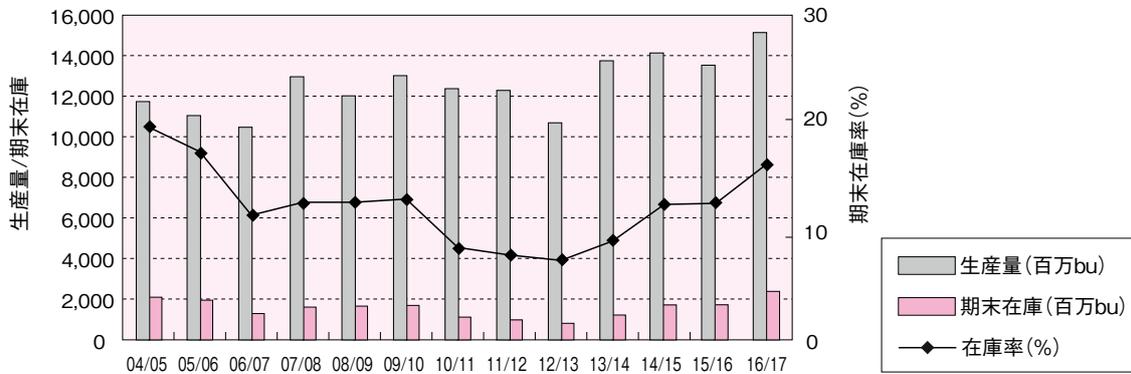
本会では、会員組合の機能強化の1つとして、このような会員担当者研修会を開催しています。今回のアンケート結果をもとに、会員の皆様がより参加しやすく、必要とされる内容の研修会を今後とも開催してまいりますので、ぜひご出席いただきますようよろしくお願い致します。

なお、当研修会の内容についてのご質問、また資料請求のご希望などがありましたら、全酪連指導・企画部（03-5931-8003）もしくは各支所指導組織課までお問い合わせください。

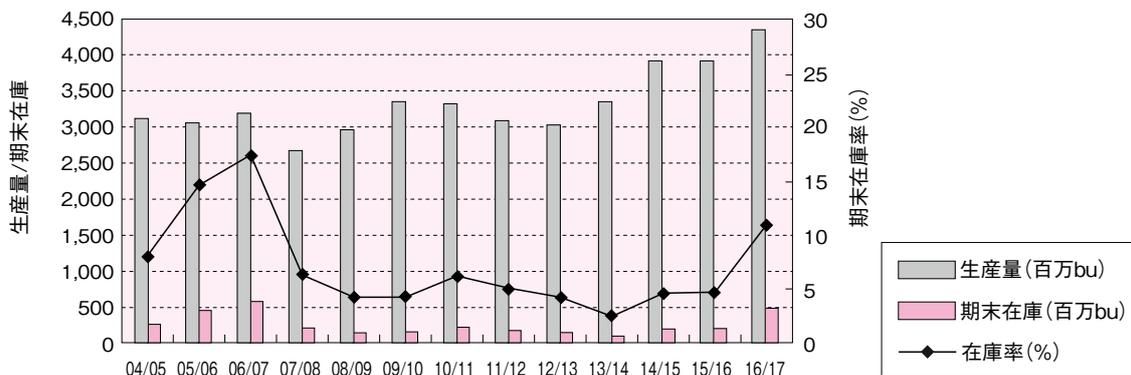
原料情勢 平成28年12月

12月9日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	【15/16年産】 作付面積88.0百万エーカー、単収168.4bu/エーカー、生産量136億100万bu、総需要量136億6,200万bu、期末在庫17億3,800万bu、在庫率12.7% 需要供給両面で変化なし。 【16/17年産】 作付面積94.5百万エーカー、単収175.3bu/エーカー、生産量152億2,600万bu、総需要量146億1,000万bu、期末在庫24億300万bu、在庫率16.4% 需要供給両面で変化なし。
トウモロコシ 相場動向	4年連続の豊作による在庫の積み増し、飼料需要の下方修正期待、順調な滑り出しの南米新穀により、基本的には上値は重い展開になると思われる。しかしながら、シカゴ安による農家の売り渋り、堅調な輸出・エタノール需要により、下値も堅くなっている。今後、南米の天候や、米国産トウモロコシの作付面積に注意が必要。
12月9日発表 米国農務省 大豆需給予想	【16/17年産】 作付面積83.7百万エーカー、単収52.5bu/エーカー、生産量43億6,100万bu、総需要量41億800万bu、期末在庫4億8,000万bu、在庫率11.7% 需要供給両面で変化なし。
大豆粕相場動向	米国産は需要供給両面とも変化なし。期末在庫も据置き。当日の相場は、輸出需要が好調なことが下支えする中、投機筋による調整の買いが集まり大きく値上げ 前日比+10-1/2¢の1,037-1/2¢(1月限)で当日の取引終了。国内産は、搾油量は前年並みで安定して推移している中、相場は搾油メーカーの採算面から輸入品対比で高止まり。シカゴ相場は原油高や中国向けの輸出成約の影響を受けやや強含む展開。懸念されていた、南米の新穀作付時期の天候は回復基調にあるとの情報。今後の相場は中国による米国からの買付け状況、南米の天候が鍵。
糖種類	【一般フスマ】 値下げにもかかわらず10月の需要は大きく変わらなかった。11月以降徐々に配合量は増加傾向。製粉メーカーでの挽砕は順調で需給バランスは適正となっていることから、相場は横ばいで推移するものと思われる。 【グルテンフィード】 値上げとなったが、飼料向け需要は引き続き堅調に推移している。輸入品は現在は安定的に輸入されているが、中心となる中国で国内需要が旺盛なこと、DDGS禁輸措置の影響を受け相場が強含むことから日本向け輸入数量は減少するものと思われる。需給ひっ迫に注意。
海上運賃	荷動きの活発化、新造船の供給減少、解撤の進捗から強含むで推移している。フランスでは、原発の定期検査により火力発電が中心となり石炭の輸入量が急増。また、季節要因として中国の旧正月前の鉄鉱石駆け込み需要が発生し、輸入量は11月から12月にかけて増加。中国の旧正月までは堅調に推移していくと思われる。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢 平成28年12月

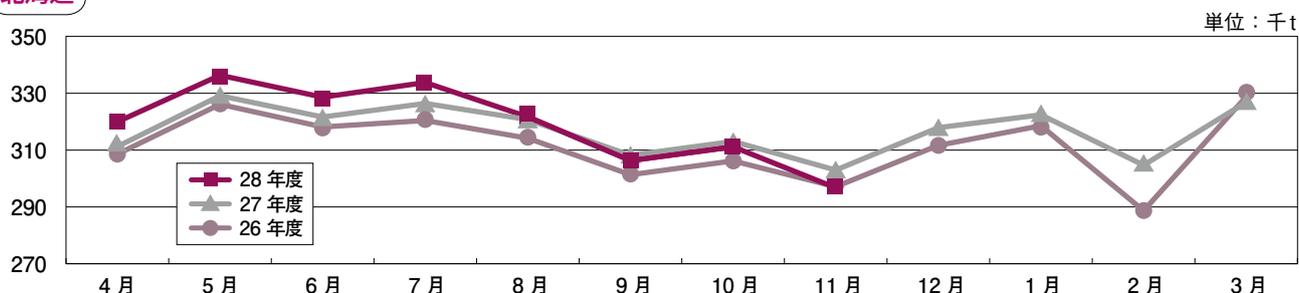
北米コンテナ船フレート	10月1日を皮切りに、各船社から毎月のように海上運賃一斉値上げ（GRI）の通知が出ています。船社によって船腹や空コンテナの状況は異なり、全船社が同価格の値上げを決定しているわけではありませんが、12月1日以降も通知通りの値上げとなると、PSW（ロサンゼルス/ロングビーチ）から日本の主要港向けの海上運賃はここ3か月で\$200前後上昇することになります。一方で、PNW（シアトル/タコマ）では韓進海運の倒産により各船社の船腹が不足気味になっている上、空コンテナの不足も問題になっています。
ビートパルプ	【米国产】16年産の各主産地の作付面積は前年に比べやや減少し、単収もほぼ例年並みの成績で終わっています。一部地域では多雨のため収穫できない圃場もあったようですが、総じて良好な作柄だったと言えます。ペレットの生産量も前年とほぼ変わらない見込みです。米国产の輸出量は漸減していますが、その分を米国内向けに販売しているようです。 【他国の状況】先月号でも記載した通り、10月に中国が米国产ビートパルプの輸入解禁を発表しました。これに伴い早速中国側からの引き合いが出てきているようです。
アルファルファ	【ワシントン州】主産地のコロニアベースンでは16年産の生産が終了しています。16年産は、春先の温暖な気候のため例年よりも早い5月上旬より1番刈の収穫がスタートしました。しかしながら、収穫期の天候が安定せず、昨年と同様、70%前後で何らかの雨当たり被害が発生する厳しい作柄となりました。2、3番刈でも40～50%程度雨当たりになったと言われており、雨に当たっていないものも過乾燥な仕上がりのものが増えております。ワシントン州の16年産をシーズン通してみても、雨当たり被害も多く発生したことから高分析の上級品は限られているようです。 【オレゴン州】中部クリスマスバレー、南部クラマスフォールズの両地域ともに16年産の生産は終了しました。温暖な気候が続き、収穫開始時期が早まったことから、クリスマスバレーでは3番刈まで、クラマスフォールズでは4番刈まで生産されています。また、総じて収穫期の天候に恵まれ、雨当たり品の発生も例年に比べ少ない傾向にあります。品質面では全体的に早刈り傾向にあったため、葉量が多く茎が細く、成分も高めめの例年通りの品質が多く生産されています。 【カリフォルニア州】カリフォルニア州中～北部でも16年産の生産は終了しました。1番刈は悪天候の影響で大部分が雨当たり品となってしまいましたが、2番刈以降は収穫時の天候も安定し色目は緑目濃く、全体的に早刈り傾向で、例年よりも成分が高いものも多く生産されています。南部インペリアルバレーでは7番刈の収穫が終了しています。16年産はシーズンを通して天候が安定し、例年並みの良品が生産されており、中国からの需要が引き続き旺盛なことに加え、米国内酪農家の高成分品に対する需要も引き続き安定的であることから、産地相場は堅調に推移しています。
チモシー	【米国产】2016年産の生産が終了しています。先月号でもお知らせした通り、1番刈の良品は少なく、現地在庫もほぼ完売の状態です。2番刈も作付面積・生産量とも減少し上級品は不足したまま生産終了となりました。 【カナダ産】カナダ産チモシーも2016年の生産は終了しました。中部クレモナ地域では、生育期には早刈りに見舞われ、収穫期に定期的に降雨が続く過去数年では最も厳しい環境となりました。南部レスブリッジ地域も天候に恵まれていたわけではありませんが、クレモナ地域に比べ天候は安定しており、収量は例年並みで上級品を除き、各グレードが概ね均等に発生している状況です。
スーダングラス	インペリアルバレーのスーダン収穫は終了しました。16年産は作柄に影響を与える降雨は2番刈の時期に一度発生した程度で、安定した天候の下で収穫を終えることが出来ました。生産量は15年産に比べ少なかったものの、昨年産の低級品を中心に繰り越し在庫もあるため、日本向けの需要は十分満たせる状況と言えます。北カリフォルニアでの収穫も終了しています。15年産に比べると作付面積は半減と言われており、上級品を中心に需要は堅調なため産地価格は強含みとなっています。
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 16年産は収穫期序盤から作付面積が減少し始めています。15年産以降、産地価格は低迷しており、一部の生産農家が3～4番刈で生産を止めたことが要因と言われています。昨年に比べ天候が安定していたことに加え、産地価格の低迷から生産農家は少しでも高価格で売するために良品を生産する傾向にあり、品質は良好な傾向です。一方で生産量は減少し、韓国からの引き合いも増えていることから、産地価格は強含みに推移すると思われるようです。17年産の当初においても産地価格は強気の提示が予想されます。
ストロー類	米国产ストローの収穫は終了しました。今年は雨あたり品が多く発生し産地側の良品が限られていることに加え、韓国からのフェスクストローへの引き合いが強くなっています。このためライグラスストローについても、現地価格は既につれ高の傾向にあり、ストロー類の価格は全体的に上昇し始めています。
オーツヘイ	【西豪州】今年の収穫は全て終了しました。昨年及び一昨年は早刈り傾向で推移したため低級品の発生は限られ上級品が中心の作柄となりましたが、10月上旬まで降雨が続いたことにより、中級品から低級品まで幅広く発生しています。また、西豪州全域で例年に比べ単収が多く、刈り取り後の乾燥（ウィンドロー）の期間が長くなり、上級品においても色目幅がある傾向が見られます。分析値については、早刈り傾向で高成分が多かった過去2年に比べ低い傾向ですが例年並みの数値と言えます。一方、低級品については、適期に刈り取られた雨あたり品が中心になりそうです。他産地に比べると茶葉や茎の変色は多めですが、特に南部地域を中心に成分は比較的高い傾向にあります。 【南豪州】今年の作付面積は昨年より10～20%増加しましたが、9月に暴風雨が発生し10～20%の圃場で倒伏や浸水の被害が生じました。16年産の単収は生育期の降雨と温暖な天候により、例年より多くなっていますが、収穫期の不安定な天候により雨あたりや刈遅れ品の発生が増え、上級品の割合は20%程度と推測されています。低級品については、数回雨に当たったものや、極度の刈遅れ品など様々なものが発生しているようで、これらの品質は例年より幅があると推測されるため注意が必要です。 【東豪州】東豪州の主産地では9月末から断続的に降雨が続いたため、11月下旬の時点でも60%程度しか生産を終えていません。収穫期の不安定な天候により例年に比べ大幅に作業が遅れている状況に加え、生育期の多雨で単収が8～9トン/ヘクタール前後と例年にはないほどの収量となっています。このため、生産量の多くは雨あたりや刈遅れにより中級品以下になると考えられます。今年の豪州産オーツヘイは、全産地で昨年産よりも単収が多く、同グレードの中でも色目が異なり、分析値も高成分が多かった昨年産と比較するとやや劣るため、旧穀と新穀の切り替え時には注意が必要と思われるようです。

生乳受託販売乳量

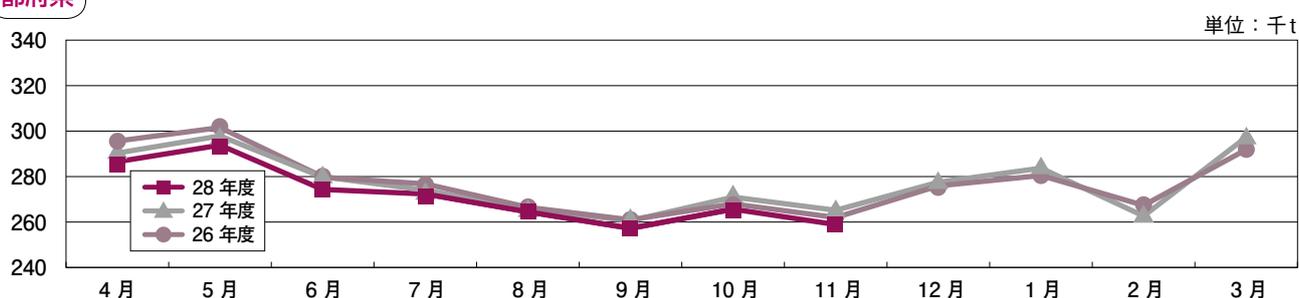
受託販売乳量

全国 **555,628t** で、前年同月比 **9,335t(1.7%) 減少** 都府県 **258,885t** で、前年同月比 **3,107t(1.2%) 減少**
 北海道 **296,743t** で、前年同月比 **6,229t(2.1%) 減少**

北海道

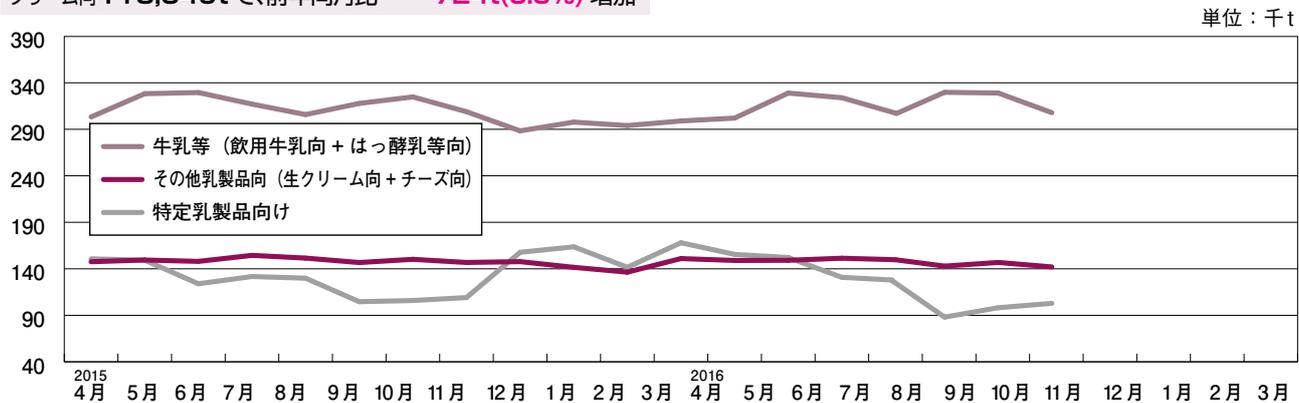


都府県



用途別販売数量

飲用向 **272,942t** で、前年同月比 **203t(0.1%) 減少** チーズ向 **29,429t** で、前年同月比 **4,615t(13.6%) 減少**
 はっ酵乳向 **35,889t** で、前年同月比 **124t(0.3%) 増加** 特定乳製品向 **103,817t** で、前年同月比 **5,365t(4.9%) 減少**
 クリーム向 **113,549t** で、前年同月比 **724t(0.6%) 増加**



各地の需給動向

- 【東北】生産は、前年比98.6%。飲用向け中心に乳業者の処理は堅調。飲用牛乳向けは99.8%、はっ酵乳等向けは98.8%、特定乳製品向けは89.0%となった。
- 【関東】生産は、前年比99.5%。特に上・中旬は見込みより上振れして推移したため需給は余剰気味であった。飲用牛乳向けは99.3%、はっ酵乳向け99.2%、特定乳製品向け102.5%。
- 【東海】生産は、前年比99.7%。生産はほぼ横ばいで推移した。飲用牛乳向けは100.5%、はっ酵乳等向けは99.9%、加工向けは83.0%。
- 【近畿、中国、四国】生産は、近畿98.2%であるが、メガファームが牽引した中四国は前年並みを維持。中国99.9%、四国100.2%。需給に大きな混乱は生じなかった。飲用牛乳向けは近畿98.0%、中国101.9%、四国100.9%。
- 【九州】生産は、前年比97.3%。当初見込96.6%も上・中旬は上振れした。乳業者処理は飲用向けが昨年好調であったため、反動減。飲用牛乳向けは96.8%、はっ酵乳向け101.4%、特定乳製品向け96.0%。



おかげさまで、50年

2017年

子牛育成用代用乳「カーフトップ」は
供給開始から50年を迎えます。

今後も、酪農家の皆様とともに日本の酪農を支える組織として
あり続けていきます。



全国酪農業協同組合連合会

母牛と子牛の移行期 パートⅡ

～胎児への影響を考慮する～

全酪連は、2017年2月にイリノイ大学畜産学部教授 ジェームス K・ドラックレイ博士を招聘し、全国6会場にて、全酪連酪農セミナー（平成28年度）を開催いたします。講師のドラックレイ博士は、哺育・育成牛、移行期牛の栄養学分野において世界的に権威のある研究者です。また、普及事業にも熟練し、酪農現場の飼養管理改善に精力的に力を注いでいます。今回のセミナーでは、胎児への影響に焦点をあて「母牛と子牛の移行期管理」を正しく理解する内容とし、2010年の同博士によるセミナーに続き、最新の技術情報を総括してご紹介する予定です。また、セミナーとは別に研究者・指導者の皆様向けに最先端情報を発信するワークショップも開催します。是非ご参加ください。

内容

酪農セミナー 2017

第1章 移行期牛の栄養

- エネルギー摂取のコントロール
- 乾乳 1群・2群管理と飼料
- 蛋白質・アミノ酸栄養の推奨
- ミネラルの推奨・DCAD・粗飼料のミネラル
- 乾乳用 TMR 調整のポイント

第2章 胎児への影響

- 妊娠中の母牛の栄養がその子牛に長期的に及ぼす影響
- 母牛の暑熱ストレスが胎児に及ぼす影響
- 乾乳牛栄養が出生後の子牛の代謝機能に及ぼす影響

第3章 新生子牛の環境への対応

- 新生子牛の生理と環境温度への対応
- 母牛の栄養状況が生まれた子牛の体温維持に影響する
- 難産が子牛の生存能力に及ぼす影響・体温維持・免疫グロブリン吸収・酸欠

ワークショップ 2017

第1章 移行期牛のアミノ酸栄養

- 移行期牛におけるアミノ酸栄養の課題（蛋白質絶対量・バイパス蛋白質・アミノ酸）
- アミノ酸栄養と肝機能
- バイパスアミノ酸製品の研究データ

第2章 初乳品質と量の管理

- 初乳品質とその量に関する課題
- 初乳生成のメカニズム
- 初乳生産と乾乳牛栄養、その他の要因

第4章 哺育子牛の栄養と管理

- 子牛の栄養要求量（エネルギーと蛋白質）
- 哺乳子牛の消化機能とその発達
- ルーメンの発達とカーフスターター

第5章 哺育期栄養の長期的な影響

- 哺育期の栄養による刺激と影響
- 海外および日本国内の泌乳データ
- 和牛子牛への“強化”哺育プログラム研究データ紹介

第3章 牛における

胎児プログラミング

- 母牛のミネラル・ビタミン充足の影響
- 子宮内環境と代謝プログラミング
- 代謝プログラミングのメカニズム・エピジェネティック効果

第4章 哺育・育成における

アミノ酸利用

- 離乳前の子牛のアミノ酸要求
- 強化哺育の効果
- 将来の NRC 子牛モデル開発
- 非乳蛋白由来の蛋白源とその問題点



講師 ジェームス K・ドラックレイ博士
イリノイ大学 畜産学部教授

【経歴】

1981年 サウスダコタ州立大学 卒業
1985年 同 修士号取得
1989年 アイオワ州立大学 博士号取得
1989-1995年 イリノイ大学 助教授
1995-2000年 同 准教授
2001～現在 同 教授

【受賞】

1993年 ベッカー賞・大学畜産学部における教育とコンサルティング
1997年 ADSA・アグウェイ農協若手酪農科学者賞
1998年 エース大学・大学教授としての卓越した研究賞
1998年 ADSA 基金 研究者賞
2000年 イリノイ州立大学 畜産学部・ベックマンアソシエイト賞
2000年 ADSA（米国酪農学会）中西部地区革新的酪農研究賞
2000年 イリノイ州立大学 畜産学部・ミッチェル賞 学生教育と研究賞 他数多くの賞を受賞

【研究領域】

- 乳牛の脂質代謝
- 移行期牛のマイクロアレイ遺伝子発現解析パターン
- 乳牛における脂肪肝とケトosisの病因論
- 家畜のペルオキシソーム性β酸化
- 反芻動物による脂肪の利用
- 乳脂肪組成に影響する要因（CLA 含）
- 離乳前子牛の栄養要求（“強化”哺育）

開催日時と場所

2月3日(金)	【仙台セミナー】 江陽グランドホテル
2月6日(月)	【名古屋セミナー】 名鉄ニューグランドホテル
2月8日(水)	【熊本セミナー】 菊南温泉ユウベルホテル
2月9日(木)	【岡山セミナー】 岡山国際交流センター
2月13日(月)	【帯広セミナー】 北海道ホテル
2月14日(火)	【ワークショップ】 北海道ホテル
2月16日(木)	【東京セミナー】 アジュール竹芝

各会場とも開会は10:00、閉会16:00となります

参加費 1名様 ¥5,000
(テキスト・昼食代含む)

対象 酪農家・組合役員・公的指導機関、あるいは研究者・獣医師・コンサルタントの方々

お申し込み・お問い合わせは、最寄の全酪連支所まで



北海道 乳牛産地情報

平成29年1月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇩……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	45~55	→	札幌管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計91.0%、累計で96.2%、苫小牧管内月計で94.2%、累計で96.9%の実績となっております。 1月の初妊牛動向といたしまして、4月分娩予定中心となるものと思われます。遠陵の購買も続いておりましたので3か月先の分娩腹が中心となります。価格としては北海道全域において値上がりしていることから、この管内でも初妊牛相場は値上がりするものと思われます。
	初妊牛	80~95	▲	
	経産牛	50~55	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	50~55	→	根釧管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で96.5%、累計で101.0%、中標津管内月計で99.4%、累計で100.7%の実績となっております。 1月の初妊牛動向といたしまして、4月分娩中心の動きになると思われます。管内の乳牛市場相場は高騰を続け12月の平均価格(税込)は根室市場956千円、釧路市場910千円となりました。今後も大型牧場を中心とした導入が継続される見込みである事、春産み中心での動きとなる事から更なる相場上昇が予想されております。市場の相場動向により庭先での購買価格も影響を受け、価格は強含みで動くものと思われます。
	初妊牛	85~100	▲	
	経産牛	55~65	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	50~55	→	帯広管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計98.3%、累計で101.9%の実績となっております。 1月の初妊牛動向といたしまして、3月~4月上旬の荷動きが中心となります。育成牛価格の高値安定が長期間継続していること、大型牧場の購買が多いこと、資源が少なく、需要が多い春産みが中心となること等、価格が値上がりする要素が重なり合うため初妊牛価格は一層高騰するものと思われます。特に、大型農場の導入意欲は依然として強く、今後も増える見込みでありますので初妊牛の引き合いは強いまま価格は高騰していくものと思われます。
	初妊牛	85~100	▲	
	経産牛	55~65	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	53~58	→	道北に管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で98.8%、累計では101.2%で、北見管内では月計で98.1%、累計で99.8%の実績となっております。 1月の初妊牛動向は3月~4月分娩中心となります。価格動向を見ますと市場開催毎に約10万円単位の値上げ幅となっておりますが、依然として道内大型牧場、災害復旧での施設完成、各事業により導入が増加しており更なる高値が予想されます。F1腹を中心に、後継牛確保の為に雌雄選別腹も急騰しております。
	初妊牛	87~98	▲	
	経産牛	55~65	▲	
道内総括	育成牛(10-12月令)	50~55	→	新年 明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願いします。 道内の12月中旬までの生乳生産量前年比は98.0%、累計で100.6%の実績となっております。 1月の初妊牛動向につきましては、3月~4月分娩の荷動きが中心となります。12月に入り道内全ての地域で育成牛・初妊牛・経産牛の価格は一段と値を上げております。腹条件で価格に差があり、ホル腹はF1腹及び雌雄選別腹より10万円安い相場になっております。1月以降につきましても搾乳素牛資源が少ない中、道内外のメガファーム等の大型導入も続くと思われる初妊牛価格は強含みで推移すると思われます。春産み導入の予定がございましたら、早めに価格や条件に幅を持ってご連絡をお願いします。
	初妊牛	85~98	▲	
	経産牛	55~65	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

げんき??

今月の表紙は、「第7回酪農いきいきフォトコンテスト」(第45回全国大会にて開催)において入賞された「げんき??」(山口県 林尚子氏撮影)です。



▼明けましておめでとうございます。
 ▼2017年に絶対叶えたい願いや野心、ありますか?
 ▼今年も皆様に新鮮な情報をお伝えできるよう努めてまいります。
 ▼変わらぬご指導のほど、宜しくお願い致します。

編集後記



平成29年1月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
 MEMBER'S INFORMATION
 全酪連会報 1月号 No.616

●編集・発行人 大森 一幸
 ●発行 全国酪農業協同組合連合会
 〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号
 TEL 03-5931-8003
<http://www.zenrakuren.or.jp/>



今月の



入賞作品紹介

うしを見たよ

小城市立三里小学校(九州)2年 山田 乃愛



今月の入賞作品は、小城市立三里小学校(九州)2年の山田 乃愛さんの作品です。クレヨンと水彩絵の具を巧みに使い画面を作っています。ピンクの画面が印象的です。ね。4頭描かれている牛さんの形が独特で惹きつけられます。画面左上にあるオレンジ色のタンクが画面に色彩的な緊張感を与えています。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第43回らくのうこどもギャラリー」で全国674点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議